令和元年度第1回京丹波町総合教育会議　議事録

１　開催日時 令和元年５月２３日（木）
　　開会：午前９時３０分　閉会：午前１１時２０分

２　開催場所 京丹波町中央公民館　大会議室（３階）

３　構成員出席者　７名
　　太田昇町長　　樹山静雄教育長　藤田道子教育長職務代理者　津田勝二委員
　　上田明成委員　竹内裕子委員　竹吉美公委員

４　事務局出席者　８名
　　長澤総務課長　堂本教育次長　山根社会教育課長　中井学校教育課長
　　西田教育振興室長　平田学校指導主事
　　山内総務課長補佐　山口総務課主事

５　傍聴者　なし

６　会議の大要

〈開会：午前９時３０分〉

○開会
　太田町長挨拶
　樹山教育長挨拶

○協議事項
（１）令和元年度京丹波町事業について
・令和元年度京丹波町当初予算編成概要について、事務局より説明。
【事務局】令和元年度京丹波町事業について説明いたしましたが、説明しました内容についてご意見等がございましたら、よろしくお願いします。
【委　員】京丹波町の人口や世帯数が減ってきているなかで、例年行なっている事業で今年度から見直した事業は何かあるか。
【町　長】財政が厳しいなかなので、多くの事業を見直したり、従来の予算から額を減らしたりしている。町民の皆さんに直接影響するようなものは出来るだけそのままにして、それ以外の部分に手をつけるようにしている。間接的に色々なかたちで影響がある部分については、ご理解をいただいている部分はたくさんある。

【委　員】資料にこれまでの予算の折れ線グラフがあるが、平成２２年から２４年で大きく増加しており、それ以降は同じくらいの数字である。この大きく増加した部分の要因を教えてほしい。
【総務課長】主なものについて、味夢の里の建設事業が大きくウエイトを占めている。
【委　員】教育委員会で案じていることのひとつに、少子化の問題があると思う。国難ともいえる状況である。予算編成のときに少子化対策について、総合的な対策が必要になると思う。もう少し子どもが増えたり、親が子育てしやすくなったりというような町をつくっていく、また、子どもだけでなく若い世帯など住民自体が増えていくような少子化に対しての構想があるのかを教えていただきたい。
【町　長】確かにどこの自治体も少子高齢化の問題で、それを解決する具体策もなかなかない状況である。そのなかでいろいろな施策を考えながらということであるが、子育て支援については、既に非常に充実している状況である。また、国においても保育料無償化の話が決まっている。町内で独自に行なっている部分も後退することなく行なっていきたいが、それもなかなか対策の決め手にはならない。議会では給食の無償化の話もでるが、相当なコストがかかることから、今後どうしていくかという問題もあるが、現時点においては無償化には踏み切っていない。とにかく、町が元気を出すということが、人が集まることに繋がるし、地域おこし協力隊の方も地域商社や移住定住などの事業を行なってくれている。その取り組みでネットワークを増やしていくなど地道ではあるが行なっている。
色々なかたちで町が少しでも元気になればと考えている。須知高校にも色々なかたちで支援をしているが、どこの自治体においても高校を出た段階で東京に行ってしまうような状況がある。東京に行ってしまうと地元に帰ってこないことが多いようである。なかなか対策として決め手がある訳ではないが、今後色々な取り組みを見ながら、少しでも人口減の対策になることを研究しながらやっていきたい。
【教育長】移住のことについて、少しだけ事例を紹介すると、今年の２月頃にある方が移住を検討されて現地に来られたときに、丹波ひかり小学校が学校紹介をしていた。私も参加し、町全体の教育のことを紹介した。町内の校園長も参加するなかで、京丹波町の良さや学校のことを紹介して理解していただく機会があった。図書室で実施していたが、風景や教室の様子など非常に興味を持っておられた。そういった取り組みを実施して、京丹波町の学校の様子も知らせることによって、こんな学校ならいいなというふうに来てもらう機会になればよいと思っている。今後もこういう機会をつくっていき、学校の良さをＰＲしていくことも大事だと思う。
【委　員】介護など高齢化社会における安心、安全な暮らしについて気になっている。考えてみると、介護福祉の現状は色々な意味で厳しくなってきている。そのしわ寄せは在宅介護にきているように感じている。例えば、和知地域では谷が深い地域があり、移動するだけでも非常に大変である。その分、充分なサービスが受けられないというふうに思っている。だからといって、施設をつくるのも難しい。それならば、既存の施設、例えば町営

住宅に空きがあるなら、そこへ来てもらってサービスを受けることができるなど柔軟な考え方や方法も検討してもらえたらありがたい。
【町　長】介護の関係につきまして、町営住宅や空き家もたくさんあるので、空き家を使ってそういうことが出来ないかなということもあるが、一番問題になっているのは介護職員の確保対策である。とにかく人がいないということで、介護全体の処遇の問題もあると思う。町内の施設も常に職員を募集しておられる。ある町内施設では、海外との経済連携協定の関係で、外国の方を雇い入れておられる。それについても、資格を取るまでは一人としてカウントされないとのことだ。そうなると介護をされる人に対する職員の割合が減ることによって、受け入れる人数も減らさなければならないということもある。施設がせっかくあるので、入りたい人はしっかり入れるくらいの介護職員の数を確保しなければならない。介護就学資金の活性化事業を昨年から始めたが、希望者がないという状況である。海外の方まで拡げると増えるのかなど、そういったことを考えていかないといけないと思っている。
【委　員】私も事業所を運営しているが、人材不足は京丹波町だけではなく、京都府内でも問題になっており、どのように人材を集めていくかということは福祉業界全般で取り組んでいる。そのなかで、京丹波町は介護職員確保対策ということで予算をあげていただいており、職員募集のチラシを出すなどの広報費用を町に補助いただいている。それを活用し、昨年は３名の職員を新たに迎えることが出来て大変助かった。介護福祉士資格を取ろうとする職員への費用の補助金も介護福祉士養成就学資金貸付事業というかたちでいただき、活用をしている。先ほど委員がおっしゃったとおり、今後いつまでも自分の家で生活したいという方はいらっしゃるが、そうなるとその家まで介護者側が行く負担がある。ヘルパーが国からもらえる報酬は、その家に着いた時点から時間がカウントされる。そこまで行く交通の時間は何も補償されていない。その部分も事業者側からすると職員を拘束しているので費用を払わなければならない。国からは報酬は払われないので、そういった面が農村地域で課題になっている。町内では「サポートハウス」が出てきて、介護まで必要ない見守りが必要な方が、集合的に住まわれて生活されるというような新たな形態が出てきている。そういう考えとして、町営住宅のところに集まっていただくと効率的に福祉的なサービスが提供できて、かつ、利用される方も事業所も安心できると思う。
【委　員】子育ての面について、ひかり小学校の学校案内について出ていたが、人数にすると大変少ない。竹野で頑張っておられる活性化委員会の方にお話を聞いても、なかなか期待するほどに多くの人に訪れていただくことが難しいとおっしゃっていたり、移住を希望されても空き家とのマッチングが非常に難しいともおっしゃっていた。しかし、竹野だけが人数が増えているので、やはり地域をあげての取り組みというのは大事だと考えている。他の校区についても、ひかり小学校や竹野小学校で実施しているような学校公開や移住募集の案内を積極的に行なっていく必要がある。また、町営住宅の活用について、町内には告知放送等で町営住宅の募集や空き状況の情報が入るが、町外には広報しているのか

ということが気になる。和知地区は一学年の人数が一桁台ととても深刻な状況である。そういう面において、町外の方への町営住宅のアピールもしていく必要があると思う。また、減ることが仕方ないのであれば、小中連携、小中一貫に向けてこれまでの取り組みをさらに一歩進めて、小規模であることを活かしていくような方向を町としても考えていただけたらと思う。

【町　長】竹野については、何年か先までの入学生と卒業生の数を地区の方が知っておられる。先日新聞記事にもあったが、「今から帰ります」という放送を入れてから帰るということをされており、地域をあげて見守っていただいている。移住について、空き家とのマッチングは本当に大変とのことだが、竹野、梅田、和知で移住の登録をしてもらったようだ。そういった取り組みが少しずつ繋がってきていると思うし、全町に広げていかなければいけないと思う。

（２）京丹波町いじめ防止基本方針の改定について

・京丹波町いじめ防止基本方針の改定について、教育委員会事務局より説明。

【事務局】京丹波町いじめ防止基本方針の改定について説明がありましたが、内容についてご意見等がございましたら、よろしくお願いします。

【委　員】いじめが起こりにくい環境づくりのなかで、日々の先生同士、先生と子ども、先生と家庭とのコミュニケーションが本当に大切であると感じている。また、小さなことに気づく心も大切である。低年齢になるほど、親が関わることも大変多く、学校内で片付くことも親が関わることで問題が大きくなっていくということもあり、難しい対応もあるのではないかと思う。また、学校内で生徒会を主にして年間通して行なっている取り組みで、友だちの良いところを見つけてお花型の紙にそれを書いて貼ろうというようなものがある。クラスによってたくさんの花が咲いているところもあれば、あまり咲いていないクラスもあったりするが、そういった学校の取り組みが参観した親にも伝わる工夫をされていることにありがたさを感じる。資料の中のアンケートについて感じたことは、いじめになるまでに防ぐという意味では「遊ぶ友だちはいますか」「悩みを相談する友だちはいますか」というようないじめを事前に防ぐような質問項目も必要ではないかなと思う。「ぼくは一人でいることが多い」や「学校がつまらない」ということの発信源になり、事前にそのことを先生が捉え、見守っていけるのではないかと思う。そういった京丹波町独自のアンケートをしていただけるとありがたい。

【委　員】いじめはすごくデリケートな問題があるのと、人間が成長していくには仲間あるいは友だちと、いざこざも含めた色々な経験をして、からだで学び取って、大事なことを体感しながら育っていくという避けられない人間の育ち方というものがあると思う。そういう面で、いじめについて早く気づいて対処するというのはすごく大事なことで、もちろん言うまでもないが、子ども自身が「思いやり」と「乗り越える力」の両面がないといけない。

相手の良いところだけを見つけていじめがなくなるかというとそうではなくて、相手の「ここを直していかないとだめだ」とか「そこが良くないから人を傷つけているんだ」とかそういうことを子どもたちが発信できる力をどこで育てていくか。それがなければ周りから大人が囲んでいて指図するだけでは、もろい人権感覚しか育たないのではないかと感じている。そのなかで「切磋琢磨」や「正義感」のようなものを養う機会がすごく少ないのかなと思う。日常生活の中で、他人を批判することも、受け止めることもやはり大事。批判というとあら探しというように受け止めるのではなく、「友だちだからこそ言いにくいことも言える」ような学校生活について教師も感覚として持っておくことが大事だと思う。私が教師をしていた頃は、朝の会や終わりの会などで振り返りをして、いやな事を出したり、テーマにして話し合ったり、いわゆる話し合いの場面が充実していたのかなと思う。今の現状で学級会を参観する機会はなかなかないが、今はスマホ社会で人と簡単なことがやりとり出来ない、自分がいやな事をいやだと言えないという状況をもう少し研究しなければならないと思う。

【事務局】子どもたち自身が最初に相談できる環境をつくっているかどうか、ことが起きてからではなく、それ以前の学校としてのあり方について、いただいたご意見を参考にしていきたい。京丹波町では６月と１０月に hyper-QU 検査を行なっている。これは子どもたちが日常で友だちと挨拶をしているとか、楽しんで学校に行っているとか、日常感覚についての検査を実施している。子どもたちがいつも安心感や肯定感を持っているか、どちらかというと被害者意識を持っているのかということがグラフ化されるため、支援が必要な子どもが明確に出てくる。日常的な子どもたちの精神状況については、そういう調査もしている。

【町　長】最近購入した本のあとがきに「仲が良いのは良いことで、仲が悪いのは良くないことだ」というような話があって、やはり人間なので嫌いな人はいる、嫌いな人を嫌いと認めることも重要だけれども、行動でいじめや差別をしないということをしっかり学ぶことが大事と書いてあった。大人の世界ではグループがあるのに、子どもの世界ではみんな仲良くしないといけないという話をしても、結局親はうそつきにしかならないということも書かれていた。実際に大人の世界では、嫌いな人に対しても挨拶をするし、一緒に仕事もする。その辺りを子どももしっかり学んでいく必要があるのかなと思う。

（３）令和元年度京丹波町教育の指針について

・令和元年度京丹波町教育の指針について、教育委員会事務局より説明。

【事務局】令和元年度京丹波町教育の指針について説明がありましたが、内容についてご意見等がございましたら、よろしくお願いします。

【委　員】「地域とあわせた教育」ということで紹介をさせていただきたいのだが、瑞穂小学校の子どもさんに、夏休みと春休みにおいて、デイサービスのキッズボランティアをやっていただいている。最初のきっかけは小学校側から、総合の学習で高齢者とのふれあいをと

いうことで来られた。その時に、デイサービスに来られているお年寄りと子どもたちが、すごく良い関係を築いていただいた。授業だけではなく、その後も交流を続けたいという児童さん側からの声があったので、長期休暇期間中にボランティアに来ていただいて、お年寄りにお茶だしをしていただいたり、レクリエーションを一緒に楽しんでもらったりという半日を過ごしてもらっている。その２週間の期間中、本当に子どもたちが楽しんで自主的に来てくださっていた。その子どもたちが、今は中学生になるが、自分たちだけではなく次の年代の子どもたちに繋ぐという取り組みをしてくれている。その際に、お年寄りへの接し方などを伝えてくれている。この取り組みを社協として他の地域でも広げていきたいと思っており、お年寄りへの思いやりの心が、学校においての思いやりの心にも繋がっていけばよいと思っている。核家族化が進んでいるので、子どもたちがおじいちゃんおばあちゃんと接する機会がなかったりするなかで、こういう取り組みをすることで、人に対する優しい気持ち、思いやりの気持ちを上手く繋げられたらいいし、お年寄りの方もお孫さんが遠くに住んでいてなかなか会えないということがあるので、来てくれる子どもたちの名前を覚えるほど楽しみにしていただいており、非常に良い交流が出来ている。

【委　員】こういった教育の指針やメソッドを策定した時に、策定してから注意しなければならないのは、きれいごとに終わらないということ。その指針が本当に具体化されるかどうか、具体化しやすいものであるかどうか。これを箇条書きにして掲げているから上手くできるということではなくて、そこからがスタートであって、それをどんな方法で学校、家庭、社会まで届けられるのかどうかがすごく大事だと思っている。もう一点は、「京丹波町独自」というのがあるが、それは結果として生まれるものであって、最初から特色を求めるというのはどうかなという個人的な思いはある。それよりも時代を超えて変わらないもの、学校教育については、時代や社会も変わるので、色々な対応はもちろん必要だが、その根本となる不易な部分をいかに自覚しているか。そのことを分かっていないと新しいものも生まれないと思う。また、今は人間性の箍(たが)が外れている時代だと思う。親が子どもを殺す事件があっても、それが何も教訓化されていない。あんなことを起こしたらどうなるか、大人の理解なら分かるはずなのに、何度も繰り返してしまう。いじめや不祥事もそうである。それが今の問題だと思っている。それと、もうひとつはメソッドについて、例えば良い学校教育をするためには、良い方法がいるし環境も整えなければならないが、その中に息づくものは「先生」や「指導」という大きな力である。それがあって初めて成り立つ訳だが、その部分になかなか時間がかけられない状況もあると思う。どういう先生がよいか、自分がどのような職業観を持つかなど考えなければならないが、時間がないということもある。しかし、そこが本当に大事で、学校と社会と家庭との連携の中で組み立てていかなければならない。連携についても、家庭は家庭、学校は学校のやるべきことをやって初めて活かされると思う。家庭、学校、社会の本来やるべきことについて、スタートの段階で意思疎通を図る必要があると思う。

【委　員】京丹波町の学校連携について、先生同士の学びあいの機会や中学校の先生が小学校へ出向く等の機会がこれから増えていくと思うので、地域の中での連携を大切にしな

がら様々な経験を通して、子どもたちひとりひとりが心豊かに育っていってくれたらと思う。

【委　員】京丹波町は、「学びをはぐくむ京丹波町メソッド」ということで、このように授業をおこなっていけばこういう力がつくだろうということで、工夫して取り組んでいただいており、各学校からプロジェクトチームに出ていただいて、随分浸透してきたと感じている。いつも教育委員で話をするときに、一番子どもたちにとって最高の環境は「先生」だという話をよくする。本年度は、これらの方針だと思うが、ひとりひとりの先生を育てていくということにも力を入れていく必要があると思っている。また、どこの学校に行っても、家庭学習の時間が短いという話をされる。資料を見ていても、「親のための学習活動支援」「家庭教育に関するサポート体制の充実」ということで挙げていただいているが、具体的にどういうことを家庭の中でしていただいたらいいか、どのように意識していただいたら家庭学習の積み上げが出来るのかということを、教育委員会として考えていく必要があると思っている。子どもを守る地域ネットワーク会議に出席した時にいつも言っているのは、京丹波町のなかにも過酷な環境の中で生活している子どもがいるということを忘れてはいけないということ。町としても、教育委員会としても、そういった子どもたちのサポートを考えていく必要がある。社協を中心に、下山地区で居場所づくりの支援活動をしていただいている。そういった取り組みを考えていく必要があると思う。

【事務局】デイサービスのボランティアについては、本当に大事だと思っている。まだ広がりも少ないという御指摘をいただいたので、今後、校園長会議でも紹介していきたい。

先ほど、流行に流されないようにとの話もいただいたが、不易な部分を大事にしながら、一方では子どもたちや地域の状況を踏まえながら学校教育を変えていく面もあると思っている。家庭学習のこともあったが、校園長会議において、各校園長さん方に学校や園の今年の経営方針を述べてもらう機会を作っている。先日、家庭学習の仕方について分かりやすくまとめたものを子どもや保護者に配っている学校の発表があった。会議で共有することによって、他の学校にも伝わるので、良い提起をしていただいた。子どもたちの学習を保障していくということについては、子どもたちひとりひとりに応じた家庭学習を提示していくことも大事だと思うので、家庭教育、家庭環境との関係で難しい点もあるが、広めていきたいと思う。

【教育長】様々な角度から教育について意見をいただいたが、京丹波町にはたくさんの学ぶ材料があると感じた。町内の人、もの、自然をフルに活用して、次の時代を担う子どもたちに色々な体験をさせて、世界に羽ばたいたり、町に残って頑張ってくれるような人材を育成できたらと思う。町にも協力いただけることがあればお願いしたい。

【町　長】先日、ホッケーの指導者会議において子どものコミュニケーション能力についての話が出た。大人には察しすぎるという面があって、例えば子どもが「牛乳」と言うだけで、親が冷たい牛乳を出す。サッカーの指導者をしていた経験から、サッカーの試合に行った際に、子どもが忘れ物をしてくることがある。その時に自分で準備したかどうかを確認す

ると、親が準備をしている。せっかくの学習の機会を親が奪っていると感じることがあり、そういう意味では察しの悪い親、察しの悪い先生にならなければいけない部分もある。京丹波町メソッドを見ていても、「話す教師から聞く教師」となっているが、上手く聞いてあげる技術がこれからは大事だと思う。大人としても意識しながら子どもたちに接していかなければいけないと思う。今後も話し合いの場を持ちながら、京丹波町の教育をより良くしていきたい。

○閉会

藤田職務代理者挨拶

〈閉会：午前１１時２０分〉